



# Newsletter

June 2014 No.20

## Greedy neuroendocrinology? Yes, indeed!

日本神経内分泌学会理事長 大 磯 ユタカ (名古屋大学大学院 医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学)

医学や生物学に関係ない世界の人に、「私は神経内分泌学を研究しています」と言うと、たいていの人は「えっ、そうですか」と二の句を継げないか、ちょっと知った風な人は「そうですか、神経の中の分泌を研究しているんですか、素晴らしいですね」、とこちらが返事に困るような反応をされることがまれではありません。神経内分泌(neuroendocrinology)、私たち学会員にとっては何の不思議もない用語ではありますが、私にとって実はなかなか奥深い言葉であったのです。私は高校時代に人の考え、人の行動がどんな仕組みから湧き出てくるのかになぜかとても関心があり、医学部に進路を決めたのも、心理学や精神医学を勉強すればそれが分かるようになるだろうとの期待を込めての選択でした。ところが何年間かの学生生活を送るうち、神経学の秩序だった学問性、それは体の症候を綿密にそして的確に把握していけば必ずや理論に沿って答え(診断)が出てくるある種 art のような美しさに惹かれ、一方では内分泌学の「下が努力すれば上は黙って見守り、下が疲果ててしまえば上は叱咤激励する」というまるで古き良き家族制度のような、そして民主主義の象徴のようなホルモンのフィードバック機構の律儀さに感動し、神経内科に進もうか内分泌内科に進もうか真剣に悩んでいました。しかし、ひょんなことから学生時代に抗利尿ホルモン(バゾプレシン)の基礎研究に少しだけ浸る機会を与えられ、何とまあ神経系と内分泌系が両方一緒になって勉強できる学問があるんだと、欲深(greedy)な私はこの世界に歩を進めることにしたのです。

神経内分泌学はこうして私の個人的な greedy さを発揮する対象となりましたが、実際にはこの機能系自体が非常に貪欲(greedy)な、という表現が悪いのですが、そんな性格を持った領域でもあるのです。それは第1にまさ

に読んで字のごとく、神経と内分泌の2つの機能を1つの作用に併せ持ってしまった素晴らしい領域であることです。心臓の機能ももちろん脳との連関はあり、青年の熱き恋心(神経)は心臓を早く脈打たせますが、しかし、失恋して神経の発火が途切れても心臓は止まることはありません。しかし、私たちの学んでいる神経内分泌系は神経系と内分泌系が表裏一体、一方が倒れれば他方も連動して果てることになります。

さらに神経内分泌系の貪欲さは、生体にとって最重要な3大欲とされる食欲、性欲、睡眠欲のすべてをわが神経内分泌系が独占し管理・監督していることを見れば一目で了解されるのではないのでしょうか。目の敵のように出てくる心臓は、確かに止まれば生体は死んでしまいますが、動いているときには食欲にも、性欲にも、睡眠にもまず関係しません。

そうした理由で、わがままではあるものの、重要で働きの神経内分泌学を学び、研究し、病気の治療を開発しようとする学生、研究者、医師など多数の人々がこの魅惑にひかれ集い、そして神経内分泌学の頂きに向け、それぞれの登山道を一步一步上っているのが現在の日本神経内分泌学会なのだと思います。確かに私たちが目指す山の頂きは、時には雲に隠れ見失うこともあり、あるいは逆に青空と明るい日差しの中で今にも手が届くところにあるようにも映ることがあるつかみ所のない不思議な山ですが、学会員の皆さんで互いに知恵を出し、協力しながらそして楽しみながら登頂していく醍醐味をこれからも味わって行きましょう。(次頁に続く)



日本神経内分泌学会はこの秋から新しい執行部が発足します。皆さんが参加して良かったと思われる学会としてさ

らなる発展をするよう心から願っております。

## 第38回日本比較内分泌学会大会報告

日本比較内分泌学会大会長 香 川 浩 彦（宮崎大学農学部海洋生物環境学科）

第38回日本比較内分泌学会大会は季節外れの台風の接近で開催が危ぶまれましたが、10月24日から26日までの3日間の会期を無事終了することができました。日本神経内分泌学会学術集会との合同開催にあたっては、日本神経内分泌学会から、多大な支援をしていただき、無事開催することができました。この場を借りてお礼申し上げます。

本大会に先立って、大会実行委員会主催のサテライトシンポジウム「サメ類の生理学研究の現状と展望」を開催し、比較内分泌を語る上で重要な未開拓の分野8題の発表や提案があり、いずれも今後の飛躍を期待させる内容でした。また、同日、若手研究者交流会「若手が思い描く研究者としてのidentity～それぞれの経験を生かして」が比較内分泌学会の行事として初めて行われ、多くの若手研究者の意見交換の場として今後この会が発展することを楽しみにしています。25～26日は、企画委員会主催シンポジウム「比較内分泌からみた性」、小林英司先生記念シンポジウム「比較内分泌学の創成と発展」を開催するとともに、日本神経内分泌学会との合同シンポジウム、sun-rising starシンポジウム、及び特別講演を共同開催し、比較内分泌学会単独では提供できない多様なシンポジウムを開催することが出来ました。また、比較内分泌学会の特徴でもあるポスターセッションには79演題が発表されました。地方大会で、また17th International Congress of Comparative Endocrinologyが開催された年でもあったことから、演題数が少なくなることが予想されましたが、これほど多くの発表がなされたことは開催する立場としては大変うれしく思います。

本大会を行うにあたって、これまでにない何か新しい企画や考え方を取り入れた学会運営を行うことや、学生や若い研究者の研究の一助となることを考え、「Bridge to a new generation」のスローガンのもと、新たな企画を実行しました。一つは新たな分野開拓という観点からサメのシンポジウムをサテライトシンポジウムという形で行いました。また、長年の経験や実績をもとに若い研究者の方に何らかの示唆を与えていただくという観点から、小林英司先

生記念シンポジウムを開催していただきました。むろん、小林先生の業績を顕彰することも目的ではありましたが、発表者の先生方が語る研究に対する考え方は、会場に立ち見も出るほどの熱気で、しかも多くの若い研究者が参加して



いたことに、記念シンポジウムの成功と比較内分泌学会の将来が明るいことを強く感じた次第です。現在の研究環境は研究手法も含めて、大きく変化しています。特別講演の中山敬一先生に代表されるようなタンパク質やペプチドの大規模解析システムの構築や今はもう十分に普及している次世代シーケンサーなどの機器により、新たな研究の大きな波が起こるでしょう。それにうまく乗ることも研究を進展させる上で、重要なことだと感じました。しかし、生命現象をできるだけ詳細に記述し、その真理に迫っていくことが生物学の基本であることは、今も昔も変わりません。従って、まずは生命現象に興味を持ちつづけることが研究を進展させる原動力になると思います。今回、従来のポスター発表賞に加え、今回新たに設けた若手研究者口頭発表賞が、そのような多くの比較内分泌を志す若手研究者を元気づけることができたとしたらこれにまさる喜びはありません。

学会を合同開催したことにより、学会の規模が大きくなったことは言うに及ばず、特別講演などを共催することにより、優れた研究を会員のみなさんに提供できたことは、非常に有益であったと思っています。また、他の学会運営方法や内容は、比較内分泌学会や大会の運営を見直すのにも役立つものと思います。最後に、日本神経内分泌学会、とりわけ第40回日本神経内分泌学会学術集会会長、宮崎大学医学部中里雅光先生に感謝の意を表し、学会の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

## 第41回日本神経内分泌学会学術集会開催のご案内

岩 崎 泰 正（高知大学臨床医学部門）

前回のニューズレターに引き続き、次回学術集会の御案内をさせていただきます。第41回学術集会は、「神経内分泌はこんなに面白い」をテーマに、文字通り神経内分泌学の面白さを基礎・臨床の両面から心底堪能して頂くべく、プログラムを工夫いたしました。非会員の方々を含め、多数の御参加をお待ちしております。

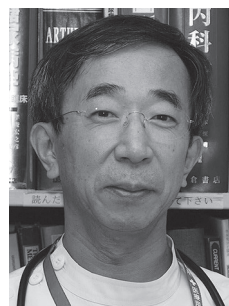
日時：2014年10月31日（金）午後～11月2日（日）

会場：都道府県会館（東京都千代田区平河町2丁目6-3）

プログラム（予定）

1. 特別講演：井村裕夫（元京都大学総長）神経内分泌学の過去・現在・未来（仮題）
2. 招聘講演1：大隅典子（東北大学総長特別補佐）内分泌細胞のルーツ神経堤細胞の魅力
3. 招聘講演2：櫻井武（金沢大学教授）睡眠覚醒状態の制御機構とオレキシンの役割
4. 教育講演：箕越靖彦（生理学研究所）視床下部による末梢代謝調節（仮題）
5. シンポジウム1：体内時計と神経内分泌－体内時計の分子機構、いつ食べると太るのか、他
6. シンポジウム2：栄養素と神経内分泌－栄養素は脳にいかなる影響を与えるか。骨代謝と脳、他
7. シンポジウム3：間脳下垂体疾患をクリニックで診る－神経内分泌の知識を実地診療に生かす方法を伝授
8. 合同シンポジウム：ホルモン療法・補充療法の理論と実践－術中・術後、シックデイ、妊娠中など難しい状況におけるホルモン治療の具体的な方法を、多方面から討論
9. 神経内分泌学入門（臨床編）間脳下垂体疾患の画像診断、機能検査、放射線療法、薬物療法などを第一人者の諸先生が徹底解説

10. 神経内分泌学入門（基礎編）  
脳の機能解剖、動物を用いた行動実験の方法、中枢性生殖制御などを第一線の研究者が分かり易く解説
11. Y I A, 一般演題－2014年  
7月18日（金）締切



参加予定者への御案内

1. 今回の学術集会は、「内分泌学ウィーク 2014」として内分泌学会の3分科会が合同リレー開催いたします。神経内分泌学会への参加登録で他の2学会（日本内分泌病理学会、日本ステロイドホルモン学会）のセッションにも参加でき、15単位の専門医更新単位を取得できます。筆頭演者には2単位が追加されるため、最大で21単位の取得も可能です。（更新時に参加証等のコピーをご提出下さい）
2. 事前参加登録を9月30日まで受け付けております（割引あり）。希望者は「41jns 事前参加登録申し込み」のメールに住所・氏名を御記入の上、iwasakiyasumasa@gmail.com までお送りください。申込み用紙を郵送いたします。
3. 11月2日（日）夜、合同シンポジウム終了後に、ルポール麹町（都道府県会館から徒歩数分）で合同懇親会を予定しています。3学会の参加者が一堂に会して情報交換できる絶好の機会です。ぜひ御参加ください。なお、余興として会員による弦楽アンサンブルを計画中です。出演希望者は学会事務局まで御連絡ください。



# 20th International Symposium on Regulatory Peptides

## 開催のご案内

塩 田 清 二（昭和大学医学部顕微（第一）解剖学講座）

Regulatory Peptides 国際シンポジウムは1974年にはじまり、米国、ヨーロッパ、日本を含む各国の研究者が2年ごとに一同が集まってペプチドに関心のある研究者が国際交流を行う場を提供することを目的としている国際会議です。

近年、ペプチドとそのレセプターは、神経系や消化管系のみならず、人体や動物個体のさまざまな組織や器官に分布していることが明らかになってきています。今回の日本での国際会議では、主に動物実験をもとにした基礎的研究発表が主体となっていますが、このペプチドは人体における種々の疾患との関連性のあることも知られてきています。最近行われたこの国際会議では、このペプチドをもとにした治療薬の開発についての研究成果も報告されています。これらペプチドが肺癌や種々の免疫疾患、アルツハイマー病などの治療薬に、また糖尿病、緑内障などの治療薬として近い将来認可される可能性もあり、今後このペプチドの研究者の数は飛躍的に増加すると予測されます。事実、本シンポジウムの参加者は回を重ねるごとに増加しており、参加者は大学や研究所などの研究機関などにとどまらず、製薬企業の研究者なども多数この会議に参加するようになってきており、学術的にも大変重要な国際会議となっています。

この Regulatory Peptides 国際シンポジウムは、2年ごとに各国持ち回りで開催されています。今回の第20回 REGPEP2014 国際シンポジウムは、アジアで2回目に開催される記念すべき会議であります。この国際シンポジウムには、約200名以上の国内外の参加希望者が見込まれており、我が国のペプチド研究の発展に大きく寄与することが期待されます。

今回の京都での国際会議の経緯ですが、2012年のデンマークで開催された第19回 Regulatory Peptides 国際シンポジウムの理事会で第20回の国際会議の開催場所について討議され、2014年の第20回シンポジウムの日本での開催が

要請されました。さらに第19回のシンポジウム最終日の総会で、参加者一同の賛同をえて2014年の日本での開催が正式に決定されました。過去18回開催された国際シンポジウムは、いずれも米国とヨーロッパの持ち回りで開催されてき



ました。しかし、日本からの本シンポジウムへの出席者が次第に多くなり、また出席する日本の研究者の演題数の増加と質の向上が目覚ましくなってきたこともあり、総会の席上で正式に日本での開催が決定されました。過去の2006年に箱根で第16回国際会議が開催されており8年ぶりの日本での開催となります。

2014年に開催される本ペプチド国際シンポジウムは、日本のみならず中国、韓国などアジア諸国からの参加者も多数見込まれます。この国際会議をとおして日本のペプチド研究者の得るものは大きいと思われます。とくに日本におけるこの分野の研究の発展のためには、若い研究者が多数参加することが強く望まれます。この会議は日本で開催されることにより、より多くの我が国の若い研究者の参加が可能となり、さらに今後の我が国のペプチド研究における学術振興にもつながると予想されます。また日本の神経内分泌領域の研究者にとっても有益な情報をもたらすことは間違いないと思われます。この分野において、日本人の研究者がさらに大きな国際貢献をなしうることも大いに期待したいと思います。

今回京都で開催される第20回 Regulatory Peptides 国際シンポジウム (<http://www.regpep-society.com/>) の日本での開催は大変有意義であり、日本のペプチド研究が医学の基礎のみならず臨床分野のみならず、薬学、歯学あるいはその他の医療系の分野の研究がさらに大きく発展する契機となることを確信します。今年の9月ですが是非京都にてお会いしましょう。

## Satellite Meeting of ICN 2014 in Sydneyのご案内

### Recent and Future Trends in Neuroendocrinology

– from Asia and Oceania to Global – 16 August, 2014

本年 8 月 16 日（土）、サテライトミーティング（シドニー オーストラリア）が開催されますのでご案内申し上げます。このサテライトミーティングは国際神経内分泌学会議（ICN 2014）（大会長：Dr. Dave Grattan, Department of Anatomy, University of Otago, New Zealand）に先立ち日本神経内分泌学会からの支援をうけて開催されます。Dr. Grattan は第 39 回日本神経内分泌学会学術集会（北九州、2012 年 9 月）のシンポジウムで特別講演をしていただきましたので、皆様にはご記憶にあるかと思います。

このミーティングはシドニー郊外 Manly のホテルで終日開催されます。プログラムは 4 つのセッションに分かれ、神経内分泌学の現状と将来の展望について、発表、討論していただきます。ミーティング終了後は同ホテルでの懇親会を予定しています。

セッションタイトル、座長ならびに演者の方々（予定）は以下の通りです。

#### Session Title:

1. Reproductive Neuroendocrinology
2. Interactions between neuroendocrine neurones and glia
3. Feeding and Metabolism
4. Neurohypophyseal hormones

#### Speakers and Discussants (alphabetically) :

Arima, Hiroshi (JPN)  
Clarke, Iain (AUS)  
Date, Yukari (JPN)  
Duitto, Anne (FRA)  
Grinevich, Valery (DEU)  
Hagiwara, Daisuke (JPN)  
Henry, Belinda (AUS)  
Iijima, Norio (JPN)  
Leng, Gareth (GBR)  
Matsuda, Ken-ichi (JPN)  
Ogawa, Sonoko (JPN)  
Oldfield, Brian (AUS)  
Onaka, Tatsushi (JPN)  
Ozawa, Hitoshi (JPN)  
Parhar, Ishwar (MYS)  
Pittman, Quentin (CAN)  
Simonds, Stephanie (AUS)  
Soga, Tomoko (MYS)  
Tsukahara, Shinji (JPN)  
Ueta, Yoichi (JPN)  
Wray, Susan (USA)

参加申し込みはこちらのサイトからお願い申し上げます。  
[http://www.uoeh-u.ac.jp/kouza/1seiri/intro\\_j.htm](http://www.uoeh-u.ac.jp/kouza/1seiri/intro_j.htm)

## 国際神経内分泌学会議（ICN 2014）のご案内

ICN2014 17 to 20 August, Hilton Sydney, Australia

8<sup>th</sup> ICN International Congress of Neuroendocrinology 2014 (ICN 2014) が本年 8 月 17 日（日）から 20 日（水）、4 日間のスケジュールでシドニーヒルトンホテルにおいて Dr. Dave Grattan (Department of Anatomy, University of Otago, New Zealand) のもとで開催されます。この国際神経内分泌学会議は 4 年に 1 回開催され、今回 8 回目です。初めてのオセアニア地域での開催となります。

会議は基礎と臨床の両領域における神経内分泌学につい

て最新のコンテンツを提供できるようにとプレナリーレクチャー（3 件）と記念レクチャー（5 件）、シンポジウム（4 件 × 各 4 テーマ）、2 日間のポスターセッションが組まれています。日本からはプレナリーレクチャーに河田光博教授（京都府立医科大学）が、またシンポジストには 4 名が選ばれています（下記プログラム抜粋参照）。日本から多くの参加を期待されていますので是非ご参加いただければと思います。プログラム抜粋は以下の通りです。

Tuesday 19th August 2014

09 : 00 – 10 : 00 **Plenary Lecture 1:**

**Mitsuhiro Kawata** : My way: Seamless Steroid Hormone

Research in New York, Edinburgh and Kyoto

Sunday 17th August 2014

16 : 00 – 18 : 00 **Symposium 1 : Theme 2 Reproduction/Sex**

Mike Lehman: KNDy cells, peptides, and the control of  
GnRH secretion

**Hiroko Tsukamura** : Kisspeptin and GnRH pulse generation

Manuel Tena-Sempere : Kisspeptin and puberty

Waljit Dhillon : Clinical use of Kisspeptin

16 : 00 – 18 : 00 **Symposium 1 : Theme 4 Neuropeptide**

**Hidetaka Suga** : Embryonic stem cells recapitulate anterior  
pituitary formation

Paul Le Tissier : Anterior Pit cell networks

**Jun Arita** : Estrogen modulation of lactotroph proliferation

Tatiana Fiordelisio : Pericytes in Pituitary development

Tuesday 19th August 2014

10 : 30 – 12 : 30 **Symposium 3: Theme 4 Neuropeptides**

Radha Chaube : Molecular cloning, phylogeny and expression  
patterns of catfish gonadotropin subunit genes

Ishwar Parhar : Kisspeptin in teleosts

**Kazuyoshi Tsutsui** : Evolution of GnIH structures and  
functions in chordates

## 第29回日本下垂体研究会学術集会 開催のご案内

開催日 : 2014年 8 月 8 日 (金) ~ 10日 (土)

会 長 : 渡辺 元 教授 (東京農工大学 農学部 獣医学科  
獣医生理学研究室)

場 所 : 八王子セミナーハウス

ホームページ : <http://www.tuat.ac.jp/~jspr2014/index.html>

参加者全員が宿泊する「合宿形式」の学術集会です。

## EDMAC誌創刊のお知らせ



INF collaboration with a new open access publication,  
"Endocrinology, Diabetes & Metabolism Case Reports"

The International Neuroendocrine Federation is delighted  
to announce their endorsement of a new open access  
publication, "Endocrinology, Diabetes & Metabolism Case  
Reports" <<http://www.edmcasereports.com>> .

Member of constituent societies and groups of the  
International Neuroendocrine Federation are eligible for a  
20 % discount off the open access fee when publishing in  
EDM Case Reports. To publish your case report, submit  
online via [www.edmcasereports.com](http://www.edmcasereports.com) using the easy-to-  
use article template.

Endocrinology, Diabetes & Metabolism Case Reports  
is a unique, open access resource that publishes and  
links together case reports, enabling practitioners to  
communicate findings, share knowledge and convey  
medical experiences efficiently and effectively. The  
search and browse functionality enables fluid navigation  
between case reports, facilitating discovery, connections  
and comparisons; making it the go-to resource across  
all the many disciplines intersecting with endocrinology,  
diabetes and metabolism.

Gareth Leng

Professor of Experimental Physiology

Head of School of Biomedical Sciences

University of Edinburgh College of Medicine and  
Veterinary Sciences

EU Seventh Framework programme projects:

Full4Health : [www.full4health.eu](http://www.full4health.eu)

NeuroFAST : [www.neurofast.eu](http://www.neurofast.eu)

British Society for Neuroendocrinology : [www.neuroendo.org.uk](http://www.neuroendo.org.uk)

## ■ 編集後記

企画広報担当常務理事 上 田 陽 一（産業医科大学医学部 第1生理学） ■

青葉の風薫る爽やかな季節となりました。Newsletter No.20をお届けします。会員の皆様におかれましては、新年度・新学期の慌ただしさも一段落した頃とお察しいたします。

さて、ICN2014（8月17日～20日、シドニー）の開催が近づいてきました。ICN、つまり国際神経内分泌学会議は4年に一回のオリンピック学会で、今回で8回目となります。開催地は、第1回サンフランシスコ（1986年）、第2回ボルドー（1990年）、第3回ブタペスト（1994年）、第4回北九州（1998年）、第5回ブリストル（2002年）、第6回ピッツバーグ（2006年）、第7回ルーアン（2010年）と

世界中を旅してきました。この度の開催地はシドニー、オセアニア地域での初めての開催となります。

ICN2014の前週には、若手研究者を対象としたサマースクール形式（南半球の季節は冬でしょうからウインタースクールと言った方がよいかもしれません）のStudent Neuroendocrinology Workshop（8月9日～14日、ニュージーランド）が開催されます。日本神経内分泌学会では、ICN2014本会の前日にSatellite Meeting（8月16日、シドニー）を企画しています。皆様のご参加をお待ちしています。詳細につきましては本号の記事をご参照下さい。

## ■ 事務局からのお願い ■

●2014年度新評議員の推薦(申請)を受け付け中です。論文数等の条件を満たす方は是非とも評議員としてご活躍ください。選考規定・関係書式はホームページ (<http://www.nacos.com/jns/>) にあります。2014年 8 月末日までに事務局に届くようにお送りください。

●年会費は年度始めに送付いたします振込用紙にてお支払いいただくようお願いしておりますが、紛失された際は事務局までご請求いただくか、ゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙にて通信欄に会員番号・年度を明記の上、下記の口座にお振込み下さい。

口座番号：01030-7-18042

加入者名：日本神経内分泌学会

ニホンシンケイナイブンピガッカイ

未納分の会費額や会員番号がご不明の方は、お問い合わせ下さい。

なお、会員番号は本会からお送りいたします郵便物の宛名ラベルにも記載してあります。また、日本内分泌学会の会員の方は、日本内分泌学会の会員の会員番号が日本神経内分泌学会の会員番号となっております。

●繰り返し会費納入をお願いしても長期（3年以上）にわたって会費を滞納されている方は「自動的に退会」となります。「自動的に退会」になる前に、事務局から最後のお願いを差し上げますので、是非会員として残られるようご検討ください。

神経内分泌学の領域は全身の内分泌機構の統合制御機能のみならず、エネルギー代謝、生殖、性行動、ストレス反応、体温、摂食、体液バランスの調節機構など幅広い領域をカバーし、その生理、病態生理および臨床面から新しい研究が次々に展開されています。会員の皆さまのご意見をもとに今後あらためて積極的な学会活動を行うよう種々の企画を進める予定ですので、ぜひとも会員資格を継続され本学会の発展のためにご協力下さい。

●事務局からの連絡は、業務効率化のため極力電子メールを用いるようにしております。電子メールアドレスをお届けでない先生は、下記の事務局までメールでご連絡下さい。また、ご自宅や勤務先の住所変更の際には必ずお知らせくださるようお願いいたします。（日本内分泌学会と共通のデータベースを使用しておりますので、日本内分泌学会にお届けの方は連絡不要です）

日本神経内分泌学会 事務局

〒604-8111 京都市中京区三条通柳馬場西入ル榊屋町75番地

日本生命京都三条ビル3階 一般社団法人 日本内分泌学会内

Phone：075-229-8252 Fax：075-229-8251 E-mail：jnes@endo-society.or.jp（メールアドレスが変更になりました）

担当：岩木 一巳、岸 守男

《住所の英語表記》

Japan Neuroendocrine Society

The 3rd Floor, Nihon Seimei Kyoto Sanjo Building

75 Masuya-cho

Sanjo Yanaginobamba-nishiiru, nakagyo-ku,

Kyoto 604-8111 JAPAN



## 役員リスト

|         |             |                                |
|---------|-------------|--------------------------------|
| 大 磯 ユタカ | 理事長         | 名古屋大学大学院 医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学     |
| 島 津 章   | 常務理事（庶務）    | 国立病院機構 京都医療センター 臨床研究センター       |
| 井 樋 慶 一 | 理事（庶務）      | 東北大学大学院 情報科学研究科 情報生物学分野        |
| 尾 仲 達 史 | 理事（庶務）      | 自治医科大学 生理学講座神経脳生理学部門           |
| 小 川 佳 宏 | 理事（庶務）      | 東京医科歯科大学 医学部 糖尿病・内分泌・代謝内科      |
| 岩 崎 泰 正 | 常務理事（会計）    | 高知大学 臨床医学部部門 保健管理センター          |
| 小 澤 一 史 | 理事（会計）      | 日本医科大学大学院 医学研究科 解剖学・神経生物学分野    |
| 高 野 幸 路 | 理事（会計）      | 北里大学 医学部 内分泌代謝内科学              |
| 上 田 陽 一 | 常務理事（企画広報）  | 産業医科大学 医学部 第1生理学               |
| 沖 隆     | 理事（企画広報）    | 浜松医科大学 医学部 地域家庭医療学             |
| 中 尾 一 和 | 理事（企画広報）    | 京都大学大学院 医学研究科 メディカルイノベーションセンター |
| 西 真 弓   | 理事（企画広報）    | 奈良県立医科大学 第一解剖学講座               |
| 中 里 雅 光 | 常務理事（次世代育成） | 宮崎大学 医学部 内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野    |
| 寒 川 賢 治 | 理事（次世代育成）   | 国立循環器病研究センター研究所                |
| 河 田 光 博 | 理事（次世代育成）   | 京都府立医科大学大学院 医学研究科 生体構造科学部門     |
| 汾 陽 光 盛 | 理事（次世代育成）   | 北里大学 獣医学部 獣医生理学                |
| 前 多 敬一郎 | 監事          | 東京大学大学院 農学生命科学研究科 動物育種繁殖学教室    |
| 有 田 順   | 監事          | 山梨大学大学院 医学工学総合研究部 第一生理         |

役員任期は2012年総会～2014年総会 理事長のみ2010年総会～2014年総会

## 名誉会員リスト

|         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 新 井 康 允 | 井 端 泰 彦 | 井 村 裕 夫 | 入 江 實   | 加 藤 順 三 |
| 加 藤 讓   | 貴 邑 富久子 | 齋 藤 壽 一 | 佐 野 豊   | 鎮 目 和 夫 |
| 高 橋 迪 雄 | 高 原 二 郎 | 出 村 博   | 橋 本 浩 三 | 廣 重 力   |
| 牧 野 恒 久 | 松 尾 壽 之 | 松 倉 茂   | 山 下 博   |         |

（以上 19名）

## 功労評議員リスト

|          |          |         |         |         |
|----------|----------|---------|---------|---------|
| 阿 部 廣 己* | 井 口 昭 久  | 石 井 淳   | 石 居 進   | 石 橋 みゆき |
| 井 上 金 治  | 井 上 修 二  | 大 郷 勝 三 | 沖 充     | 小 笹 宏*  |
| 加 藤 進 昌  | 加 藤 昌 克* | 久 保 勝 知 | 佐久間 康 夫 | 佐々木 英 夫 |
| 芝 崎 保    | 鈴 木 光 雄  | 須 田 俊 宏 | 高 野 加寿恵 | 武 谷 雄 二 |
| 田 邊 清 男  | 谷 口 洋    | 千 原 和 夫 | 中 井 康 光 | 中 井 義 勝 |
| 中 林 肇    | 新 見 道 夫* | 本 間 研 一 | 本 間 さ と | 牧 野 英 一 |
| 三 木 伸 泰* | 村 上 治*   | 本 松 利 治 | 森 昌 朋   | 森 下 一   |
| 森 本 靖 彦  | 柳 瀬 昌 弘  | 山 路 徹   | 吉 見 輝 也 |         |

（以上 39名）

※印の方は2013年度新功労評議員

## ■ 2013年度 新入会員 ■

|                   |                                        |
|-------------------|----------------------------------------|
| 荒 井 勇 樹           | 日本医科大学 大学院医学系研究科 解剖学・神経生物学分野           |
| Md.Nabiul Islam   | 山口大学 医学部 機能神経解剖学                       |
| 大 屋 愛 実           | 東京大学 大学院総合文化研究科 広域科学専攻 生命環境科学系         |
| 垣 田 真以子           | 国立病院機構 京都医療センター 内分泌代謝内科                |
| 金 谷 萌 子           | 埼玉大学 理工学研究科                            |
| 清 田 篤 志           | 名古屋大学 医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科                |
| 河 野 順 子           | 東北大学 大学院情報科学研究科 情報生物学                  |
| 佐 野 一 広           | 筑波大学 人間系行動神経内分泌学研究室                    |
| 澤 田 浩 武           | 宮崎大学 医学部 小児科                           |
| 清 水 浩一郎           | 宮崎大学 医学部附属病院 第三内科                      |
| 谷 内 秀 輔           | 広島大学 大学院総合科学研究科                        |
| 谷 田 任 司           | 京都府立医科大学 大学院医学研究科 解剖学教室 生体構造科学部門       |
| Chaw Kyi Tha Thu  | 埼玉大学 理工学研究科                            |
| 寺 坂 友 博           | 岡山大学病院 総合内科                            |
| 当 間 貴志雄           | 岡山大学 医学部医歯薬総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学         |
| 中 田 有 紀           | 弘前大学 大学院医学科 内分泌代謝内科学講座                 |
| 中 谷 理恵子           | 国立病院機構 京都医療センター 内分泌代謝内科                |
| 中 村 翔             | 東京大学 大学院農学生命研究科 動物育種繁殖学教室              |
| 藤 沢 治 樹           | 名古屋大学 大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学             |
| 松 尾 いづみ           | 日本医科大学 大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野／疼痛制御麻酔科学分野 |
| 水 谷 和 子           | キッコーマン総合病院 小児科                         |
| Mir Rubayet Jahan | 山口大学 大学院医学系研究科 機能神経解剖学                 |
| 山 口 昌 俊           | 宮崎大学 医学部 産婦人科                          |
| 渡 邊 琢 也           | 群馬大学 医学部附属病院 病態制御内科学                   |

(以上 24名)

## ■ 賛 助 会 員 ■

|                  |                                          |
|------------------|------------------------------------------|
| キッセイ薬品工業株式会社     | 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-9               |
| 協和発酵キリン株式会社      | 〒100-8185 東京都千代田区大手町1-6-1 (大手町ビル)        |
| 帝人ファーマ株式会社       | 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号 霞が関コモンゲート西館  |
| 日本イーライリリー株式会社    | 〒651-0086 神戸市中央区磯上通7-1-5 三ノ宮プラザビル        |
| JCRファーマ株式会社      | 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内3-17-13 いちご丸の内ビル9階 |
| ノバルティスファーマ株式会社   | 〒106-0031 東京都港区西麻布4-12-24 興和西麻布ビル6階      |
| ノボノルディスクファーマ株式会社 | 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル       |
| ファイザー株式会社        | 〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル     |
| 三菱化学メディエンス株式会社   | 〒108-8559 東京都港区芝浦4-2-8                   |

(以上 9 社)

## ■ 日本神経内分泌学会 記録 ■

(第1～7回 神経内分泌シンポジウム、第8～23回 神経内分泌分科会)

|                    | 開催年月日         | 会長 (～第5回 世話人)    | 開催地 |
|--------------------|---------------|------------------|-----|
| 第 1 回              | 1967. 8. 8～ 9 | 伊 藤 眞 次          | 札 幌 |
| 第 2 回              | 1968. 8. 8～ 9 | 辻 昇 三            | 神 戸 |
| 第 3 回              | 1970.11. 8    | 伊 藤 眞 次・熊 谷 朗    | 宝 塚 |
| 第 4 回              | 1971          | 熊 谷 朗・三 宅 有      | 西 宮 |
| 第 5 回              | 1974.12       | 伊 藤 眞 次          | 札 幌 |
| 第 6 回              | 1979.10.21    | 加 藤 順 三 (帝京大)    | 東 京 |
| 第 7 回              | 1980.11. 1    | 熊 原 雄 一 (大阪大)    | 大 阪 |
| 第 8 回              | 1981.10.22    | 熊 谷 朗 (千葉大)      | 東 京 |
| 第 9 回              | 1982.10.27    | 井 村 裕 夫 (京都大)    | 京 都 |
| 第 10 回             | 1983.11. 3    | 川 上 正 澄 (横浜市立大)  | 東 京 |
| 第 11 回             | 1984.11. 3    | 佐 野 豊 (京府医大)     | 京 都 |
| 第 12 回             | 1985.10.13    | 鎮 目 和 夫 (東女医大)   | 松 本 |
| 第 13 回             | 1986.10.19    | 塩 谷 弥兵衛 (大阪大)    | 大 阪 |
| 第 14 回             | 1987.10.31    | 入 江 實 (東邦大)      | 東 京 |
| 第 15 回             | 1988.11. 5    | 野 村 純 一 (三重大)    | 津   |
| 第 16 回             | 1989.10.22    | 廣 重 力 (北海道大)     | 札 幌 |
| 第 17 回             | 1990.10.31    | 加 藤 讓 (島根医大)     | 京 都 |
| 第 18 回             | 1991.11.17    | 吉 田 尚 (千葉大)      | 東 京 |
| 第 19 回             | 1992.10.11    | 井 端 泰 彦 (京府医大)   | 京 都 |
| 第 20 回             | 1993.11.13    | 貴 邑 富久子 (横浜市大)   | 横 浜 |
| 第 21 回             | 1994.12. 3    | 山 下 博 (産業医大)     | 北九州 |
| 第 22 回             | 1995.11.18    | 出 村 博 (東女医大)     | 東 京 |
| 第 23 回             | 1996.10.25～26 | 高 原 二 郎 (香川医大)   | 高 松 |
| 第 24 回             | 1997.11. 8    | 新 井 康 允 (順天堂大)   | 東 京 |
| 第 25 回             | 1998.10.11～16 | 山 下 博 (産業医大)     | 北九州 |
| (第4回国際神経内分泌学会議と合同) |               |                  |     |
| 第 26 回             | 1999.10.29～30 | 齊 藤 寿 一 (自治医大)   | 東 京 |
| 第 27 回             | 2000.10.13～14 | 千 原 和 夫 (神戸大)    | 神 戸 |
| 第 28 回             | 2001.10.26～27 | 高 橋 迪 雄 (味の素研究所) | 東 京 |
| 第 29 回             | 2002.10.11～12 | 橋 本 浩 三 (高知医大)   | 高 知 |
| 第 30 回※            | 2003. 9.11～13 | 牧 野 恒 久 (東海大)    | 横 浜 |
| 第 31 回             | 2004.10. 9～10 | 須 田 俊 宏 (弘前大)    | 弘 前 |
| 第 32 回※            | 2005. 7. 7～ 9 | 河 田 光 博 (京府医大)   | 沖 縄 |
| 第 33 回             | 2006.10.27～28 | 佐久間 康 夫 (日本医大)   | 横 浜 |
| 第 34 回             | 2007. 8. 4～ 5 | 森 昌 朋 (群馬大)      | 群 馬 |
| 第 35 回※            | 2008. 8.28～30 | 芝 崎 保 (日本医大)     | 東 京 |
| 第 36 回             | 2009. 9. 4～ 5 | 大 磯 ユタカ (名古屋大)   | 北九州 |

(第8回国際下垂体後葉ホルモン学会と合同)

---

---

|        |                                   |                  |     |
|--------|-----------------------------------|------------------|-----|
| 第 37 回 | 2010.10.22～23                     | 島 津 章 (京都医療センター) | 京 都 |
| 第 38 回 | 2011.11.25～26                     | 加 藤 幸 雄 (明治大)    | 東 京 |
|        | (内分泌学ウィーク2011)                    |                  |     |
| 第 39 回 | 2012. 9.28～29                     | 上 田 陽 一 (産業医大)   | 北九州 |
|        | (第 3 回国際神経ペプチド学会日本支部シンポジウムとジョイント) |                  |     |
| 第 40 回 | 2013.10.25～26                     | 中 里 雅 光 (宮崎大)    | 宮 崎 |
|        | (第38回日本比較内分泌学会と合同)                |                  |     |
| 第 41 回 | 2014.10.31～11.2                   | 岩 崎 泰 正 (高知大)    | 東 京 |
|        | (内分泌学ウィーク2014)                    |                  |     |
| 第 42 回 | 2015. 9.18～19                     | 井 樋 慶 一 (東北大)    | 仙 台 |
|        | (第23回日本行動神経内分泌研究会と合同)             |                  |     |

---

※は日本下垂体研究会との合同学会

# 日本神経内分泌学会 定款

|      |             |
|------|-------------|
| 施行   | 昭和56年 6月 5日 |
| 一部改正 | 昭和59年11月 3日 |
| 〃    | 平成 2年10月31日 |
| 〃    | 平成 6年12月 3日 |
| 〃    | 平成 9年11月 8日 |
| 〃    | 平成11年10月29日 |
| 〃    | 平成14年10月11日 |
| 〃    | 平成15年 9月11日 |
| 〃    | 平成16年10月 9日 |
| 〃    | 平成17年 7月 8日 |
| 〃    | 平成18年10月27日 |
| 〃    | 平成19年 8月 4日 |
| 〃    | 平成23年11月25日 |
| 〃    | 平成24年 9月28日 |

第1条 本会は日本神経内分泌学会（Japan Neuroendocrine Society）と称する。  
第2条 本会の事務局は理事会の指定する場所におく。

第3条 本会は神経内分泌学の進歩・向上をはかることを目的とする。

第4条 本会は次の事業を行なう。  
1. 学術集会の開催  
2. 国際交流の促進  
3. 国際的研究者の育成  
4. その他、本会の目的達成に必要な事項

（会員）

第5条 本会の会員を次のように分ける。  
1. 一般会員  
2. 名誉会員  
3. 賛助会員

第6条 一般会員は本会の目的に賛同し、所定の年会費を納入した者で、その年度の学術講演会での講演発表の権利を有する。また3年連続して会費を納入しなかった者は会員の権利を失う。

2. 一般会員が退会を希望するときは、理由を付して退会届を理事長に提出しなければならない。  
第7条 名誉会員は本会の目的に関し特に功績のあった者で理事会が推薦し、評議員会の承認を得て決定し、総会に報告する。

2. 名誉会員は一般会員と同等の資格および権利を有するが会費は免除される。

第8条 賛助会員は本会の目的に賛同し、賛助会費を納入した個人または団体である。

第9条 一般会員および賛助会員の会費は理事会で立案し、評議員会と総会の承認を得る。

（役員）

第10条 本会に次の役員を置く。  
1. 理事 若干名（うち理事長1名）  
2. 監事 2名

（役員を選任）

第11条 理事は評議員の投票または理事長の推薦により評議員会および総会の承認を得て選任する。理事長の推薦による理事は原則3名とするが、必要に応じ若干名を追加することができる。

2. 理事は互選で理事長を定める。

3. 監事は理事長が推薦し、評議員会および総会の承認を得るものとする。

（理事の職務）

第12条 理事長は、本会を代表し会務を統轄する。

2. 理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けたときは、あらかじめ理事長が指名した順序により、理事がその職務を代理し、又はその職務を行う。

3. 理事は理事会を組織して、この定款に定めるもののほか、本会の総会の権限に属する事項以外の事項を議決し、執行する。

4. 理事は理事長の業務を補佐する。

5. 理事長は必要に応じ、本会の運営に必要な研究賞選考委員会などの諸種委員会の設置および委員の委嘱を行なうことができる。

6. 理事長又はその代理者は日本内分泌学会との十分な連絡を図るため、日本内分泌学会理事会にオブザーバーとして出席する。

（監事の職務）

第13条 監事は本会の業務および財産を監査する。

2. 監事は理事会に出席する。

（役員の任期）

第14条 理事長の任期は4年とする。

2. 理事の任期は2年とする。評議員の投票により選ばれた理事は理事会の推薦および評議員会・総会の選任決議を経て、連続してもう1期再任できる。所定の任期終了後も評議員の投票または理事長の推薦により再選された場合には重任を妨げない。

3. 監事の任期は2年とする。連続する場合は1期に限り再任できる。

4. 役員の任期は学術集会時の総会の日からはじまり、それぞれ定められた任期を経た後の学術集会時の総会の日



をもって終了する。

5. 役員は65歳の誕生日を迎えた後は、現在の任期を終了した後、更に再任されることはない。

(理事会)

第15条 理事会は理事長が召集する。

2. 理事会の議長は理事長とする。

第16条 理事会は理事の現在数の3分の2以上の者が出席しなければ、議事を開き議決することは出来ない。ただし、当該議事につきあらかじめ書面をもって意志表示した者および他の理事を代理人として表決を委任した者は、出席者としてみなす。

2. 理事会の決定は出席者の過半数による。可否同数の時は、理事長が決する。

3. 理事長は出席が必要と認めた者を、オブザーバーとして理事会に出席させることができる。

(評議員、功労評議員の選出および任期)

第17条 評議員は評議員2名以上の推薦に基づき、理事長が理事会に諮り、評議員会の議を経て定め、学術集会時の総会の承認を得るものとする。

2. 評議員の任期は4年とし、再任を妨げない。ただし、再任は理事会において審議し、評議員会および総会の承認を得るものとする。

3. 評議員は4年の任期を満了しない場合でも、65歳の誕生日を迎えた後の学術集会時の総会の日をもって任期を終了する。

4. 功労評議員は、第17条3項により任期を終了した評議員で、議員歴10年以上の経歴を有し本会に功労のあった者の中から、理事会の議決を経て推薦される。

(評議員、功労評議員の職務、権利)

第18条 評議員は評議員会を組織して、理事長および理事会の諮問事項、その他本会の運営に関する事項を審議する。

2. 功労評議員は、評議員会に出席できるが、評議員会の表決に加わることができない。理事長は、必要があると認めた時は、功労評議員に対し意見を求めることができる。功労評議員は本会会費を免除される。

(評議員会)

第19条 評議員会は年1回、学術集会時の総会に先立って、理事長が召集する。但し、正当な理由がある場合は、総会と合同で開催できるものとする。

2. 評議員会の議長は、出席議員の互選により定める。

第20条 評議員会は、評議員現在数の3分の2以上の者が出席しなければ、議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につきあらかじめ書面をもって意志表示したものおよび他の評議員を代理人として表決を委任した者は、出席者としてみなす。

2. 評議員会の決定は出席評議員の過半数による。可否同数のときは、議長が決する。

(総会)

第21条 総会は会員をもって組織する。

第22条 総会は学術集会時を含めて少なくとも年1回、理事長が召集し開催する。

2. 臨時総会は、理事会が必要と認めたとき、理事長が召集する。

第23条 総会の議長は出席会員の互選により定める。

第24条 総会は理事会と評議員会における審議事項を議決する。

第25条 総会は会員現在数の3分の1以上の者が出席しなければ、議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につきあらかじめ書面をもって意志表示したものおよび他の会員を代理人として表決を委任した者は、出席者としてみなす。

2. 総会の決定は出席会員の過半数による。可否同数のときは、議長が決する。

(会長)

第26条 会長はその年度の学術集会に関わる任務を遂行する。

第27条 会長は理事会において推薦し、評議員会および総会の承認を得て決定する。

第28条 会長の任期は1年とし、前回学術集会の終了翌日から学術集会終了の日までとする。

(学術集会)

第29条 学術集会は毎年1回、秋に開催する。またその内容は本会として特色あるものとする。

第30条 学術集会に発表する者は、会員であることを必要とする。ただし、本会の主旨に賛同する非会員で会長が承認した場合には発表を行なうことができる。

(表彰)

第31条 神経内分泌学の領域において優れた業績をあげた研究者に対し、別に定める規程に基づき、研究賞を授与する。また、基礎的研究の発展を推進するために若手研究助成金制度を設け、別に定める規程に基づき助成を行う。

2. 本会の目的の達成または事業の遂行に関し特段の功績のあった者に対し、別に定める規程に基づき、特別功労賞を授与する。

3. 学会業績が卓越しており、かつ指導的立場で学会活動に精勤している者に対し、別に定める規程に基づき、学会賞を授与する。

(国際神経内分泌連盟)

第32条 本会は International Neuroendocrine Federation (国際神経内分泌連盟) に加盟し、年会費を負担する。

(会計)

第33条 本会の運営には次の資金をあてる。

1. 会費

2. 寄付金

3. 資産から生ずる収入

4. その他の収入

2. 年度会計の報告は監事の監査を経た後、理事会、評議員会並びに総会にはかり承認を得る。

3. 会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会則の変更など)

第34条 本会則の変更および細則の作成には理事会および評議員会の議を経て総会の承認を得る。

(附則)

第35条 本会則は平成11年10月29日より施行する。

# 日本神経内分泌学会 定款施行細則

施行 平成12年10月13日

一部改正 平成14年10月11日

一部改正 平成23年11月25日

(役員)

第1条 定款第11条に定める評議員による理事選出は、理事長が委嘱した選挙管理委員会の管理下に郵便により行なう。

2. 選挙の結果、得票数が同数となった場合は会員歴の長い者を選任するものとする。

第2条 選挙により理事に選任された者が任期の途中で辞任したときは、投票で次点となった者を繰り上げて、評議員および総会で承認を得て理事に選任する。

この場合の任期は前任者の残任期間とする。

(会務の担当)

第3条 理事長は理事から庶務担当、会計担当、次世代育成担当および企画・広報担当の理事それぞれ複数名を任命する。

第4条 理事長は日本神経内分泌学会の代表者としてInternational Neuroendocrine Federation（国際神経内分泌連盟）のcouncil memberを兼任する。但し、Executive Committee Member に選ばれた場合には、その任期（4年）が終了するまで新理事長代理としてExecutive Committeeに出席する。

第5条 庶務担当理事は次の事項を担当する。

- (1) 会員に関する事項  
入会、退会、会員の認定
- (2) 評議員に関する事項  
評議員の選出に関する手続き、評議員会の議案と記録
- (3) 理事会に関する事項  
理事会の議案と記録  
理事の選出に関する手続き
- (4) 記録の保管と雑誌への掲載
- (5) 外部との折衝に関する事項
- (6) 学術集会に関する事項
- (7) その他、庶務に関する事項

第6条 会計担当理事は次の事項を担当する。

- (1) 現金の出納および保管
- (2) 会費の請求および収納
- (3) 予算および決算に関する事項
- (4) 会計帳簿および証書類の整理および保管
- (5) その他、会計資産に関する事項

第7条 次世代育成担当理事は次の事項を担当する。

- (1) 学術賞の受賞候補者を選出し、理事会に答申する。
- (2) その他、次世代育成に関する事項

第8条 企画・広報担当理事は次の事項を担当する。

- (1) 学会の運営と事業の企画・立案に関する事項
- (2) 学会の運営と事業について学会員および関係する各方面への広報活動

(年次学術集会)

第9条 年次学術集会は、第 回日本神経内分泌学会学術集会と呼称する。

第10条 年次学術集会の会期は原則として2日とする。

第11条 年次学術集会における講演抄録は、日本内分泌学会雑誌に掲載し会員に配布する。

第12条 年次学術集会の経費は、本会の学術集会費などをもって充てる。会長は収支決算書を作成し、理事長に報告する。

(細則の変更など)

第13条 会則及び細則施行に関し必要な規定は、理事会の議を経てその都度別にこれを定める。

第14条 本細則を改正するためには、理事会、評議員会及び総会の議決を経なければならない。

第15条 本細則は、平成12年10月13日より適用する。



ドパミン作動性パーキンソン病治療剤:

ニュープロ® パッチ 2.25mg、4.5mg、9mg、13.5mg

レストレスレッグス症候群治療剤: ニュープロ® パッチ 2.25mg、4.5mg

**ニュープロ® パッチ** 2.25mg・4.5mg  
9mg・13.5mg

Neupro® patch 2.25mg・4.5mg・9mg・13.5mg

〈ロチゴチン経皮吸収型製剤〉 薬価基準収載

劇薬、処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること

◇効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については添付文書を参照してください。



製造販売元

**大塚製薬株式会社**

東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先

**大塚製薬株式会社 医薬情報センター**

〒108-8242 東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー

〈13.12作成〉



持続性ソマトスタチンアナログ徐放性製剤 薬価基準収載

**ソマチュリン® 皮下注** 60mg  
90mg  
120mg

Somatuline® 60mg・90mg・120mg for s.c. Injection

ランレオチド酢酸塩徐放性製剤

劇薬

処方せん医薬品\*

\* 注意 — 医師等の処方せんにより使用すること

「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

商標

ソマチュリン®/Somatuline® is the registered trademark of Ipsen Pharma, Paris, France.

製造販売元(輸入元)

**TEIJIN** 帝人ファーマ株式会社

〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

【資料請求先】 学術情報部 ☎ 0120-189-315

SML002-AD-1402-2

2014年2月作成



医療機器認証番号 22400BZX00097000  
機械器具74 医薬品注入器  
管理医療機器 医薬品・ワクチン用注入器  
JMDNコード 12504002

成長ホルモン製剤 グロウジェクトBC注射用8mg 専用注入器

# グロウジェクター<sup>®</sup> 2

GroWjector<sup>®</sup> 2



■「操作方法又は使用方法」、「禁忌・禁止を含む使用上の注意」等は取扱説明書・添付文書をご参照ください。

製造販売元

パナソニック ヘルスケア株式会社

〒105-8433 東京都港区西新橋2-38-5 西新橋MFビル

販売元

JCRファーマ株式会社

(資料請求先:学術企画部) 〒659-0021 兵庫県芦屋市春日町3番19号

2014.1.作成

Norditropin<sup>®</sup>  
FlexPro<sup>®</sup>



ヒト成長ホルモン(遺伝子組換え)製剤

**ノルディトロピン<sup>®</sup>**  
**フレックスプロ<sup>®</sup> 注** 5mg  
10mg  
15mg

薬価基準収載

Norditropin<sup>®</sup> FlexPro<sup>®</sup>

一般名:ソマトロビン(遺伝子組換え)

処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等につきましては、添付文書をご参照下さい。



製造販売元 (資料請求先)

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル  
www.novonordisk.co.jp

2-1-3418-02-01  
2011年3月作成



- **シンプルなアナログ式**  
アナログ式だから見やすく、操作が簡単になりました。
- **製剤含量 (6mg/12mg) 別の専用ペン**  
それぞれのカートリッジをペンにセットするだけ。複雑な初期設定は要りません。
- **詳細な投与量設定刻み**  
投与量は6mg用ペンなら0.025mg刻み、12mg用ペンなら0.05mg刻みになりました。  
患者さんの体重に合わせ、より適切な投与量を設定できます。
- **1回最大投与量は3.00mg**  
12mg用ペンなら、1回の最大投与量が3.00mgです。  
体重60kgまでのターナー症候群および軟骨異栄養症の患者さんにも対応できます。
- **安全性と患者心理に配慮した針隠しカバー標準搭載**  
患者さんの注射に対する恐怖心を軽減し、安全性に配慮した針隠しカバーを標準搭載しました。

管理医療機器  
医薬品ペン型注入器

## ヒューマトローペン® 6mg

HumatroPen® 6mg  
ヒューマトローブ®注射用6mgカートリッジ専用  
認証番号: 221ADBZX00111000

## ヒューマトローペン® 12mg

HumatroPen® 12mg  
ヒューマトローブ®注射用12mgカートリッジ専用  
認証番号: 221ADBZX00112000

\*ヒューマトローペン®6mgおよび12mgのご使用に際しては、添付文書および取扱説明書をよくお読みください。

\*ヒューマトローブ®注射用6mgおよび12mgの「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「副作用」等の詳細については添付文書をご参照ください。

ヒューマトローペン®6mg・ヒューマトローペン®12mgは  
日本イーライリリー株式会社のヒト成長ホルモン製剤カートリッジ専用の  
医薬品ペン型注入器です。

製造販売元〈資料請求先〉

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

## Lilly Answers リリーアンサーズ

日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口

**0120-360-605**※1 (医療関係者向け) 受付時間: 月曜日～金曜日 8:45～17:30※2

※1 通話料は無料です。携帯電話、PHSからご利用いただけます。 ※2 祝祭日および当社休日を除きます。

### 薬価基準収載

■効能・効果、用法・用量、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照下さい。

製造販売元 **あすか製薬株式会社**  
[資料請求先] 東京都港区芝浦二丁目5番1号

販 売 **武田薬品工業株式会社**  
大阪市中央区道修町四丁目1番1号

提 携 Laboratoires  
FOURNIER S.A. (France)

高脂血症治療剤 フェノフィブラート錠 処方せん医薬品<sup>注)</sup> 注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

# リピディル®錠 53.3mg・80mg

2011年12月作成